

サービスラーニングを通しての学びについて

活動先：NPO 法人 ふれあいネットワーク美浜
クラス：原田 正樹 先生

1. 活動を通しての自分の成長と気づき

私は「ふれあいネットワーク美浜」で活動させていただいて、利用者が喜んでくれる企画を考えるためには、利用者のニーズを把握することが必要だと気づくことができた。私たちは、プログラムの中でちぎり絵をしようと考えた。生徒と利用者が一緒にちぎり絵をしたら楽しいし、利用者も喜んでくれると思い、ちぎり絵を企画した。しかし、実際にちぎり絵を実施したら、利用者である高齢者は細かい作業が苦手ということで一緒にちぎり絵を行うことができなかつた。結局、私たち生徒だけでちぎり絵を完成させて、完成したものを見ていただくというようにした。結果、利用者は完成したちぎり絵を見て喜んでくれたけど、一緒に何かをして喜んでくれる企画ができたなら良かったと感じた。この経験から、自分たちの考えで、これをしたら楽しいだろうと企画するのではなく、利用者に合わせて企画を考えることが求められるということを知った。そして、企画を考える前に利用者のニーズを把握することが大切だと思った。ちぎり絵は失敗してしまっただが、歌やおやつ作りは成功した。これは、企画する前に事前訪問で様子を見てきたり、スタッフや先輩に利用者の話を聞いたりして考えた企画だったので、利用者に喜んでいただけたと思う。このように、利用者のニーズを把握するためには事前訪問で話を聞いたり、生活の様子を見たりして、利用者の好きなものを知っておいて、どのようなことをしたら喜んでくれるのかを考えることが必要だと気づくことができた。

また、活動を通して私はコミュニケーション能力を身につけることができた。活動の中で、利用者・スタッフ・全盲の方など、さまざまな人と関わることができた。利用者は高齢者で最初はどのようなことを話せばよいのか分からなかつた。しかし、利用者から話しかけてくださり、たくさん話をして、いろいろなことを教えていただいた。そこから、次は自分から積極的に関わろうと感じ、次の活動からは自分から話しかけていくようにした。また、若い人は小さい声・早口で話すので、大きい声でゆっくり話してほしいと言われていたので、心掛けることができた。コミュニケーションをとるときには、会話の速さや声の大きさを気にかけることが重要なのだと気づくことができた。そして、全盲の方の病院の送迎についていったときに、全盲の方を誘導するときにはどのように声をかけたらいいいのか、物を渡すときには手で確認させてあげるなど心掛けることがあり、とても勉強になった。普段、全盲の方と接する機会がないので送迎についていき、関わることでどのように接するといいいのかを学ぶことができて、私自身が成長することができた。この他にも、さまざまな場面でいろいろな人と関わることができ、私は今まで受け身の姿勢だったけど、活動をしてからはいろんな人と積極的に関わるように行動することができた。

6 日間の活動で、生活に役立つこともたくさん学んだ。おやつ作りや昼食の準備・後片付けをして、家事についていろいろ学ぶことができた。スタッフに料理を教えてもらった

り、作っているのを見たりして料理を覚えた。家事の工夫するところなど生活の知恵を活動の中でたくさん身につけた。今でも教えてもらってことは実行している。家事の成長は、活動後すぐに実践することで実感することができた。一人暮らしをしていると教えてもらうことができなかったので、とても役に立つことが学べて良かったと感じた。家事はこれからも必要なことなので、忘れないようにしたい。

サービ斯拉ーニングで6日間活動してきて、多くのことに気づき、その気づきを自分の成長につなげていくことができたと感じた。ただ活動しただけでなく、活動後に振り返りをして、活動を通して研究したいことを調べていき、活動を学びにつなげていくことができたのが良かったと思う。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

私が「ふれあいネットワーク美浜」で活動して見えてきた社会課題は、男性の社会参加の難しさとNPOが地域にあまり知られていないという2点である。

「ふれあいネットワーク美浜」は、利用者もスタッフも女性しかいない。また、他のNPO法人も女性の割合が多い。そこから、男性の社会参加の難しさについて考えた。そして、男性が社会参加できる機会が必要だと感じた。男性は女性に比べて、外に出てみんなと交流しようと思わないと考える。また、女性が多くいる中、男性1人の環境では気まずいと感じるのではないかと思った。そして、スタッフが、女性ばかりだと行事なども女性的な考えに偏ってしまうので、男性が参加しにくくなってしまおうと考える。そこで、男性が社会参加できるように工夫することが必要である。まず、男性の利用者を増やす前に男性のスタッフを増やすことが必要だと思った。もしくは、男性のボランティアを募集する。男性のスタッフを増やすことで、男性の利用者を増やすための考えが出てくるだろう。それから、男性が利用したくなるような、活動を考えることができると思う。

また、「ふれあいネットワーク美浜」は利用者を増やしたいと考えている。しかし、なかなか増やすことができない。それは、地域の人に「ふれあいネットワーク美浜」がどのようなところか知られていないからだと考える。普段はどのようなことをしているのかを理解してもらえれば、利用したいという人が出てくると思う。そのためには、NPO同士・地域・住民がつながりを強くすることが大切だと考える。つながりを強くするには、話し合いの場を設けることができれば良いと思った。意見を交換する場があれば、NPOでの活動の説明ができて、地域の人にNPOを理解してもらいやすくなると思う。また、NPOや地域だけが活動内容を広めようとするのではなく、NPOについて理解した私たち自身がNPOの良さを伝えていくべきである。活動を通してNPOとはどのようなところなのか、どのような活動をしているのかを学んできたので、それを地域の人に広めていくような活動を行うことができれば良いと思った。また、NPOを広めるためには何をすればよいのかを私たちがNPOに提案するのも良いと考える。地域活動や社会課題は、私たちにも関係することなので、私たちも課題を解決するために行動することが必要である。

3. おわりに

ふれあいネットワーク美浜のスタッフ・利用者みなさん、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。